

Ⅱ 研究の方向

幼児期に必要な直接的なかかわりが少ないと言われている現代，幼稚園教育の充実を図るためにも私たちは子どもたちの主体的な活動としての遊びを十分に確保し，多くのかかわりを通して，直接的な体験の機会を十分に確保できる保育を実践していかなければならない。

昨年度の「人」とのかかわりの研究の成果と課題を踏まえながら，今年度は「もの」に着目し，「もの」とのかかわりの中で，保育者としてどのような援助をしていくのか，環境構成をどのように工夫・改善していくのか探っていくこととする。

1 研究計画

年次	研究内容
<1年次> 「人」とのかかわりを中心に	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究テーマについての分析 ○ 年齢別の自分らしさを発揮する過程や姿をまとめる。 ○ 人とのかかわりから自分らしさを発揮する子どもの姿を探る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者としての援助の在り方 ・ 環境構成の工夫・改善
<2年次> 「もの」とのかかわりを中心に	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「もの」とのかかわりから自分らしさを発揮する子どもの姿を探る。 ○ 遊びの広がりをもつ「もの」の教材研究を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者としての援助の在り方 ・ 環境構成の工夫・改善
<3年次> 「自然」とのかかわりを中心に	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「自然」とのかかわりを通して自分らしさを発揮する子どもの姿を探る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者としての援助の在り方 ・ 環境構成の工夫・改善 ○ 研究の成果，課題を踏まえた教育課程・指導計画の作成

2 研究の方法

私たちは，本研究テーマのもと研究を深めるために，次のような方法で研究を進める。

- 保育者としての援助の在り方
- 環境構成の工夫・改善

- ・ 実態調査の実施及び分析・・・P15，参考資料1・2
- ・ 研究保育及び保育研究・・・P16
- ・ 事例研究・・・P20
- ・ 子ども遊びの変化の分析・・・P55
- ・ 「もの」の分析・・・参考資料3

<具体的方法>

- 家庭での「もの」とのかかわりの実態を捉えるために実態調査を行い、分析をする。
- 研究保育・保育研究や事例研究を通して、他とのかかわりによって見られた子どもの姿をまとめる。
- 「もの」とかかわる子どもの姿を年齢ごと、遊びごとにまとめる。
- 「もの」についての多面的な見方をまとめる。
- 抽出児の追跡調査をする。(2～3年の長期計画)
※「もの」に限らず、子どもが「他」とかかわる中で自分らしさを発揮する幅を広げていく姿を記録する。
- PLAN (計画) - DO (実行) - CHECK (評価) - ACTION (改善) のサイクルで、保育実践を振り返り、保育内容を検討する。

